

新年度のご挨拶

がんナレッジデリバリーについて

院長 田中洋史



日頃より当院の診療と運営にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。季節は巡り、温かい春、新年度を迎えました。元旦・年始とはまた異なる高揚感や緊張感が感じられます。その背景の一つは人の異動であり、当院にも多くの新しいスタッフが加わりました。それぞれがもつ力を十分に発揮されることを期待していますが、各自の心身が整っていることが、みなさんにより医療を提供するための前提条件であると思います。まずは、各自の体調管理に気を配っていただくようお願いしたところです。

さて、日本では 2023 年に約 38 万人の方ががんのために亡くなっており、これは全体の約四分の一と最多を占めていました。少子化、人口減少が進んでいますが、今後もがんは、高齢化などを背景として、しばらくの間少しずつ増加すると予想されており、依然として、“手強い” 病気となっています。

いろいろな病気、例えば高血圧症や脂質異常症といった病気の主な原因は、私たちの体を作っている細胞の“働きの異常”です。一方で、がんは細胞の“働きの異常”に加えて、“数の異常”がその原因や特徴となっています。がんは進行すれば増殖・増大し、体の他の場所に転移します。そうになってしまうと、なかなか完全に制御する、根治せしめることは難しくなります。がんが手強い病気たる所以です。

重要なことは

- ◆一番に、がんにならないこと（予防）
 - ◆二番に、がんになったとしても早い段階で見つかること（早期発見）
 - ◆三番に、がんになったとしても適切な治療を受けること（治療）
- です。

予防、早期発見、治療それぞれの分野においてがん医療は日々進歩しています。手強いからこそ、相手をよく知ること、情報をアップデートすることがとても重要です。しかし、SNS 等では情報が溢れ、正しい情報にたどり着くことは必ずしも容易なことではありません。

この春は、“新潟県立がんセンター新潟病院 がんナレッジデリバリー” と称して、私や当院のスタッフがみなさんのもとにお邪魔して、がんに関する最新情報を直接お伝えしたいと考えています。みなさんとお会いできることを楽しみにしております。

職員一同、みなさんのお役にたてるように頑張っております。今後ともご理解とご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

Contents

- ◆新年度のご挨拶
- ◆緩和ケア病棟のご紹介
- ◆がんプロフェSSIONAL紹介「泌尿器科」
- ◆医療機関との医療連携登録について
- ◆入院支援センターPR
- ◆患者サポートセンター着任のご挨拶
- ◆地域連携講演会開催報告

地域の患者さんを、がんセンターの緩和ケア病棟とともに支えます

—他院からの紹介入院を、2026年4月より開始しました—

緩和ケアセンター長 本間英之

県立がんセンター新潟病院の緩和ケア病棟は、2019年の開設以来、当院に入院・通院中の患者さんのみを対象としてまいりました。このたび、2026年4月より他の医療機関からの紹介患者さんの入院受け入れを開始いたしました。開設以来初めてとなるこの方針転換について、背景とご紹介の手順をお伝えします。

■ なぜ、今このタイミングで

がんで亡くなる方の大半は、地域の医療機関で診られてきた患者さんですが、専門的な緩和ケア病棟で最期を迎えられる方は全国でわずか7.6%にとどまり、県内でも施設が限られているのが実情です。今回、開設以来の十分な経験の蓄積による質の高い緩和ケアの提供が可能となったこのタイミングで「当院の患者だけ」という壁を越え、地域で懸命に支えてくださっている先生方と連携を深める方針といたしました。



<緩和ケア病棟ディルーム>

■ 当病棟でできること

緩和ケア病棟では、緩和ケア内科医師を中心に、薬剤師・MSW・公認心理師・リハビリ・管理栄養士などによる職種協働による包括的ケアを提供します。

- ・ 難治性疼痛・呼吸困難・せん妄などに対する専門的介入
- ・ 全21床・全室個室・個別空調のプライバシーと生活の質の確保
- ・ 病状に応じた在宅や地域病院への橋渡しを積極的に支援する双方向連携
※病状に応じて在宅療養・地域の医療機関へ円滑につなぐことを、常に意識しています。

■ ご紹介いただける患者さん

以下の基準を満たす方が対象です。

1. がん患者であること
2. 病名・病状および「根治不能な病態」であることを患者さん・ご家族に説明されていること
3. 積極的抗がん治療を希望していないこと
4. 患者さんご本人・ご家族が緩和ケア病棟への入院を希望していること

■ ご紹介の手順

- ①まずは病院の相談員様等を通して下記連絡先にお電話でご相談ください。概要を伺った後、必要書類の準備についてご案内いたします。
- ②必要書類をもとに検討を行い、入院面談（患者さん・ご家族対象）日を調整いたします。
- ③入院面談後、入棟判定会議にて入院登録をいたします。転院可能日が決定いたしましたらご連絡いたします。

お問い合わせ先：患者サポートセンター 緩和ケア病棟入院相談窓口 ☎ 025-266-5111（代表）
詳細につきましては当院ホームページにも掲載しております。

■ おわりに

地域の皆様のお力になれるよう、当院一同、心よりお待ちしております。どうぞお気軽にご連絡ください。

がんプロフェッショナル紹介

泌尿器科 谷川俊貴



スタッフ

- 谷川俊貴 1984年 新潟大学卒、泌尿器科専門医、指導医、医学博士
白野侑子 2008年 福井大学卒、泌尿器科専門医、指導医、腹腔鏡技術認定医、医学博士
晝間 楓 2012年 新潟大学卒、泌尿器科専門医、指導医、腹腔鏡技術認定医、医学博士
中山 亮 2013年 新潟大学卒、泌尿器科専門医、指導医
中澤 徹 2023年 山形大学卒、泌尿器科専攻医

特徴

泌尿器科は尿路系（腎、腎盂、尿管、膀胱、尿道）、男性生殖器系（前立腺、精巣など）、腎や尿管の周囲（後腹膜腔）や副腎の病気について、診断と治療を行います。これらの臓器のがんや腫瘍の他、腎不全（例えば腎移植）、前立腺疾患による排尿障害（前立腺肥大症）、脳梗塞や脊髄損傷後の排尿障害（神経因性膀胱）、女性の排尿異常（過活動膀胱、腹圧性尿失禁）、男性性機能障害（勃起障害、男性不妊症）、尿路系や男性性器奇形などが泌尿器科の守備範囲です。

当科はこれらのうち、がん（悪性腫瘍）を主に治療しています。例えば、膀胱がんの手術件数は、全国でも当科が常に上位（5位以内）にランクされていますし、腎がんの手術件数も同様で、腹腔鏡下手術も多く行っています。最近、日本でも増加している前立腺癌は当科でも10年前に比べて10倍以上の患者さんを治療しており、県内の他施設にはない密封小線源治療も施行しております。膀胱がん、腎がん、前立腺がんは、多くの新規薬物治療が行える様になり、5年生存率も20年以上前に比べ2-3倍程度に延長しています。

また、標準的治療が奏功しなくなった場合には、遺伝子パネル検査により治療選択肢がないか探ることもできます。



<泌尿器科医師> 左より中山医師・谷川医師
晝間医師・中澤医師

こんな時に受診をお願いします

尿に血が混じって赤い時（血尿）—膀胱、腎臓など尿路系の癌や、腎や尿管の結石のことがあります。排尿すると痛い（排尿痛）—膀胱炎や膀胱上皮内がん、前立腺疾患の可能性もあります。尿の勢いが弱い、尿の回数が多い、尿漏れがある—男性ならば前立腺の病気が疑われます。脳梗塞など神経系の病気でも排尿がうまくいかないことがあります。また、開業医の先生や他の病院から紹介される患者さんが多く、検診や人間ドックの検査結果により受診される患者さんも増えています。症状がなくても、血液検査や超音波検査の結果泌尿器科へ行くように指示された場合、必ず受診をお願いいたします。



カンファレンスの様子

医療機関との医療連携登録について

患者サポートセンター 副センター長 八幡貴子

この度、日頃より地域医療を支えている医療機関の皆さまとの連携強化と、情報発信の充実を目的に医療連携登録をアップデートいたしました。デジタル化の推進に倣い、地域住民や県民の皆様へも広く都道府県がん診療連携拠点病院である当院を知っていただく機会でもありと考えております。1000件にもものぼる連携医療機関の皆様のご賛同を賜り、「当院ホームページへの連携医療機関の掲載」を行いました。当院のホームページから以下の方法で連携医療機関の情報が確認できます。また、登録医療機関の皆様には「医療連携登録証」を発行いたしました。地域との連携を重視し、より一層の発展に向け精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

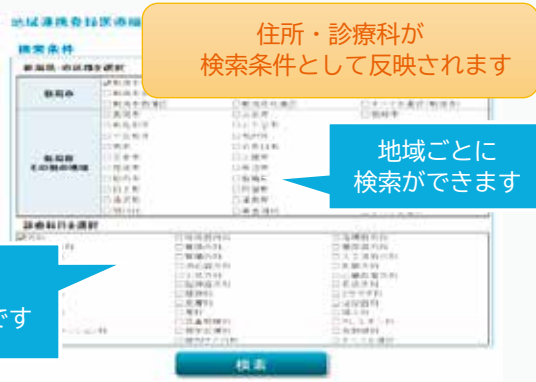
～「連携医療機関」の閲覧方法～

◆当院ホームページ下段に【連携医療機関】のバナーがございます。クリックして番号順に進みます。

1



2



さらに診療科を
絞り込むことが可能です

3



◆正面玄関入口に設置している電子モニターでも連携医療機関を検索できます。

上記②・③と同じように進み閲覧ください。
ご来院の際には、ぜひお試しください。

大きなモニターでタッチパネルのため
簡単に操作することができます

《医療機関の皆様へのお願い》

◆ホームページ掲載内容につきましては、正しい情報発信に努めてまいります

地域連携だよりにて、年1回程度更新に関するお知らせを発信いたします。

連携医療機関の皆様には、登録内容の変更・修正、取り消し等が発生した場合にはご一報ください。

◆新規連携医療機関の登録、新規当院ホームページ掲載ご希望を受け付けております

ご希望がありましたら、患者サポートセンターまでご連絡をお願いいたします。

入院前の患者さんを支援する窓口

～がん専門病院ならではの視点から患者さんの療養生活を支えます～

入院支援センター

当院では「PFM (Patient Flow Management)」の考えのもと、2017年に入院支援センターを開設いたしました。2021年4月1日より新潟県立病院において「患者サポートセンター」と名称統一され、その中の部門の一つとなり現在に至ります。当センターでは、緩和ケア科を除く診療科の入院予定の患者さんを対象に、年間約4200件の対応をしています。

入院支援センターは、入院を予定している患者さんとご家族がスムーズに安心・安全な入院生活が送れるように、入院前から支援することを目的としています。具体的な支援内容は、入院生活を円滑に送るために必要な患者情報の聴取、入院に対する思いや気がかりな点への対応、クリティカルパスや入院生活に関する説明です。患者さんから入院に際して収集した情報は、入院病棟の看護師をはじめ、医師や多職種と共有し、患者さんに合わせた療養環境、医療・看護ケアの提供に役立てています。当院では治療のため繰り返し入院される患者さんも多く、その都度、体調面の変化等がないか聞き取りを行っています。介護・医療サービスを利用されている患者さんの場合は、地域の関係者とも情報共有や連携をはかり、退院後も切れ目のないサービス継続につなげています。また、当センターには国立がん研究センターの研修を修了した認定がん専門相談員の資格を持つ職員を配置しています。気持ちのつらさ、仕事、お金、家族のことなど治療に関して気がかりなことがある場合は、院内の関連部署に介入を依頼するなど、多職種で患者さんを支えるための情報発信をしています。予約患者さんが多く混雑する日もありますが、スタッフ一同、分かりやすい説明と丁寧な対応で患者サービスの提供に努めてまいります。



<入院支援センタースタッフ>



<入院支援センターの様子>

患者サポートセンター 着任のご挨拶

今年度は3名の新しいメンバーが加わりました。
どうぞよろしくお願いいたします。

小林 <医療ソーシャルワーカー>

4月から患者サポートセンターに
配属となりました小林と申します。
患者さんやご家族の方が安心して治療に臨
めるよう、様々な不安や悩みを一緒に考え
ていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

高山 <心理士>

4月から患者サポートセンターに
配属となりました高山と申します。
患者さんやご家族の方々がどのようなお
困りごとや要望を抱いているのか丁寧に
ききながら、対応を考えていきたいと思
ひます。よろしくお願いいたします。

島田 <看護師>

患者さん、ご家族の思いに寄り
添い対応できるよう努めて参り
ます。よろしくお願いいたします。



<患者サポートセンタースタッフ>



<病診担当スタッフ>

令和7年度 地域医療連携講演会の開催報告

令和8年2月4日当院講堂におきまして、令和7年度都道府県がん診療連携拠点病院の研修事業として、地域医療連携講演会をWEB開催いたしました。平素よりお世話になっております地域の医療機関の方々との連携を目的に、毎年開催しております。

昨年のアンケート結果からご要望の多かった血液内科と放射線治療科をテーマに、平日のお忙しい時間帯にも関わらず、地域の先生方をはじめ薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーにご参加いただきました。

演題1は、『いまどきの血液がん診療』と題して、診療部長（血液内科） 関 義信医師より、血液疾患の一部の病は不治の病ではなくなってきており、周囲のサポート体制が生命予後に及ぼす影響が大きく、医療・福祉連携の重要性が強調されました。

演題2は、『放射線肺炎臓の常識をくつがえす定位放射線治療』と題して、放射線治療科部長 松本康男医師より、肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療（SBRT）後の特異な画像変化について、多くの画像を用いながら紹介・解説がありました。

アンケート結果では、「大変参考になった・参考になった」が多く、有意義な講演会となりました。

今年度の講演会開催日時や演題につきましては、決まり次第、地域連携だよりや当院ホームページ、医師会報等で発信してまいります。皆様のご参加をお待ちしております。